

男子部

黎明祭

山本太郎

過去にも男子部では「新緑祭」「紅緑祭」など名前を変えて学園祭を行なってきたが、共学化前の最後の年にあたる今年度は「黎明(しのめ)祭」として9月16日(土)、17日(日)の2日間にわたって盛大に行われた。同日に開催された女子部の「野の花祭」と合わせて、来場者は延べ2000人を上回った。

1. 検討段階

22年度3学期には当時の高1生徒から学園祭を行ないたいという企画書が職員会議に提出された。日程、予算、女子部「野の花祭」との調整などを経て、7月には概要が定まった。過年度に実施した際には高1あるいは有志による開催であり、学校全体で機運が高まるというよりは一部の生徒が尽力する仕組みになっていた。今回起案した生徒たちは学年ごとに催しを行ない、部全体で盛り上げていきたいという意向を明確に打ち出した。そのため各学年で何を行なうかの検討を1学期中に行ない、生徒教職員全員が関わってイベントを作り上げるようになった。

2. 準備段階

女子部「野の花祭」と同日に開催するため、来場者が両方のイベントを楽しめるよう、女子部と連携をはかり、受付やパンフレットを統一し、使用する場所を調整した。独自の文化や習慣がある両部がひとつのイベントを共同で開催することは困難を極めたが、共学化を前に、良い相互理解の機会となった。

多くの学年が希望した食品提供については保健所への申請、食材の発注、オペレーションの組み立て、なにより食中毒を起こさないための安全管理など、準備項目は多岐に及んだ。そのため中心となる生徒たちと担当の教員は夏休み中にも打ち合わせや試作を重ねた。食品提供の際に使用する食器についても、使い捨て食器の環境負荷を考慮して、リユース食器をレンタルして使用することとした。誤って廃棄されないよう回収場所を工夫したり、洗浄するための人員を割いたり、これも多くの試行錯誤を重ねた。さらには来場者との金銭授受のトラブルを防止するため、金券を使用することとして、担当の生徒は何千枚もの金券を自作した。

広報担当の生徒はチラシを自作し、近隣の住居や公共施設などに出向いて告知を行なった。SNSも活用して、Instagramでのリール動画を積極的に配信した。申込および受付はまなコレに引き続きPeatixを使用した。

3. 実施内容

各学年および有志が行なった模擬店やイベントの一覧は以下のとおりである。

●食品提供

りんご飴、たこ焼き、パンケーキ、焼きそば、かき氷、串焼き、クラフトコーラ、ポップコーン、わたあめ、ドリンク(学園生産の紫蘇ジュースと梅ジュースなど)、ホットドッグ、クリームソーダ、ドライカレー

●体験

お化け屋敷、縁日(昔遊び)、ミニサッカー、カジノ、迷路

●観賞

バンド演奏、サイリウムダンス、「つのす展」

これらの他にも、授乳室や乳幼児の休憩室の設営、撮影スポットの自作、スタッフTシャツの作成、ごみの回収、受付、警備、会場案内など、裏方とも言えるあらゆる運営に生徒が関わり、イベントを支えてくれた。終了後に生徒たちが企画した「後夜祭」では、有志バンドによるライブのなかアイスや飲み物がふるまわれ、イベントをやり遂げた生徒たちのリラックスした表情がそこかしこに見られた。多くの生徒は、自分たちの慣れ親しんだ学校が形を変えることの寂しさを感じていることと思うが、それと同時に共学化へのイメージや希望も持てる機会になったのではないかと感じる。会の実施には生徒だけの力では到底足りず、食糧部・広報本部・総務部などの部署はもちろんのこと、保護者にも多くの助力をいただいた。この場を借りて感謝申し上げる。